

B 71 エムペンスリン殺虫剤の防虫効果
大阪市大生活科学 三削 浩

目的 蒸散性の衣料防虫剤としては、従来からパラジクロルベンゼンなどが主として用いられているが、最近になつて農業分野に広く使用されている、合成ピレスロイドが低毒性であり衣料用防虫剤（一般名エムペンスリン）として用いられるようになった。辻井氏も低濃度で効果の大きいことを報告している。そこで市販の洋ダンス用防虫剤について、実用試験を行いその効果について検討した。

方法 洋ダンス内（内容積約705ℓ）に各種衣類を27着吊し、さらに薬剤吸着用として綿布10枚（10×10cm）を、吊した衣類の肩、背中部に取り付けた。防虫剤は、各製品の用法用量に従つて設置した。供試虫はイガ（*Tinea pellionella* (L.))の幼虫を用いた。吸着用中の薬剤の分析については、イガを取り出すと同時に吸着用をサンプリングし、アセトンで抽出を行ないガスクロマトグラフィで分析を行なった。試験開始後、3～4週、7～8週、11～12週、15～16週、19～20週、23～24週にイガの致死率、食害量を求めた。また吸着量の分析も行なった。

結果 市販防虫剤の用法、用量に従つて設置したが、製品による効果の相違は大きかつた。A製品の防虫剤の効果は大きく23～24週後においても、吊した衣類の肩部における防虫効果は100%であつた。また、重なり合う背中部においても、イガの致死率100%の箇所が殆んどであり効果を示した。食害量についても、ブランクの食害量に近い製品もあつたが、A製品では実験初期においても非常に少なかつた。吸着量の分析結果についても同様の傾向を示した。